

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400481		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・丸の内		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町丸の内2丁目13-5		
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果市町村受理日	平成23年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=2170400481&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南瀬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成23年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が積極的に外部とかかわれるようにイベントへの参加、外食、買い物と毎月出掛けてもらっている。 ・地元老人クラブと音楽療法を通じ5年にわたる交流を続けている。 ・家族様へ生活便り、ホーム新聞、電話などで絶えず利用者さんの状況をお伝えして信頼を得ている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“「安心感」に包まれながら毎日笑顔で穏やかに過ごしてもらいたい” この願いを全職員で共有し、一人ひとりに寄り添ったケアを心がけている。日頃より利用者の様子について家族には蜜に報告、相談しており、共に本人を支える姿勢で信頼を得ている。契約終了後も毎月音楽療法に参加されたり時折ホームを訪問されるなど、関係を続けている家族も多い。特に今年度はターミナルケアに事業所全体で取り組んでおり、看取りの経験を通し、指針の整備や関係者の方針共有の重要性を再確認している。また災害対策にも力を入れている。運営推進会議で参加者から夜間を想定した訓練が提案され、今年度実施し具体的な避難誘導方法を検討している。入居者の安心、安全な暮らしを守るため、積極的な努力がされているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夢家族の理念として「安心感」を玄関に掲示しております。 管理者と職員は個々の利用者の心身状況に添うケアを目指しています。	ホーム理念『安心感』が玄関に掲示されており、職員は常に目にし意識している。またミーティングや日常の現場でも理念を掘り下げた具体的なケアについて話し合いがあり、職員間での共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月ある音楽療法には町内老人クラブ、民生委員さんも参加され6年目のお付あいです。公園や商店街のお祭りにも全員で出掛け地域と繋がっています。	日常的に近くの公園に散歩に出かけており、近所の方とは顔見知りで挨拶を交わす関係ができています。また喫茶店やレストランに出向くことも多く、認知症の理解も深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季節ごとの地域のイベントへの参加。音楽療法。毎月の外食で地域内のレストランのご協力で認知症の人の理解と支援を頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回地域包括支援センター民生委員さん市議員さん御家族に御参加いただき伺った御意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度定期的開催し、ホームの状況、勉強会、避難訓練などが報告され、参加者からは感想や意見が活発に出される。昨年の会議で参加者から夜間を想定した避難訓練の提案され、今年度実施に至った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターから、介護認定更新の際には市職員がみえてホームの取り組みなどお話しして理解を深めてもらっている。	市担当者とは運営推進会議を通じて顔なじみの関係ができており、ホームの状況は把握してもらっている。また生活保護を受けている利用者については個別に連携を図り、問題解決に向け共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては施設内研修で職員全員が理解しております。ただ、安全な食事の為に車椅子テーブルと転倒防止のベットの柵は御家族の了解を頂いております。	玄関の開錠も含め身体拘束をしないケアについて、全職員で研修を受け認識の共有を図っている。ただし利用者の安全が確保できない状況が予想される時には、職員で検討を重ねやむを得ない場合には、家族に書面で了解を取り実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は高齢者虐待防止の勉強会を毎年施設内研修で実施しており、その理解に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護研修を受けております。職員は施設内研修で勉強会をし個々の利用者に合わせた対応を話し合います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は十分な説明がなされています。改定の際も文章によって理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は常に管理者職員が把握している。家族には運営推進会議に参加して意思を伺ったり、コメント用紙にて要望をもらい運営に活かしている。	ホーム新聞や利用者毎の便りの送付及び訪問や電話など、家族とは蜜に連絡を取っており、意見をもらう機会も多い。家族からの要望は職員間で共有し、検討を重ねサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで代表者や管理者は職員の意見や提案を聞きケアマネージャーのアドバイスももらい運営に反映させている。	毎月行なわれるミーティングでは、管理者やケアマネージャーが職員一人ひとりに問いかけ、意見を言い易いよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護に従事している職員の給付金の申請など職場環境条件の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員一人一人の力量や状況に合わせた法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者と積極的に交流している。施設内研修では同業者の講師を招き大変有意義な勉強をさせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の不安は当然のことでありひたすら傾聴することで信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にケアマネージャーと共に家族からの要望を聞きサービス導入に活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で管理者とケアマネージャーが本人と家族からニーズを聞き取り支援に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の思考に合わせた作業や話題を提供して職員と利用者が支えあう関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の音楽療法に参加して本人と手を握り合って歌を唄う。家族さんがいたり趣味に合わせてカラオケに出掛け支援に努めている。	利用前に訪問し、本人や家族からこれまでの生活背景を聞き取っている。また入居後にも本人が培ってきたものを知ることが多い。遠方の自宅を職員と共に訪ね、近所の方との再会を喜ばれた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない利用者に先輩利用者が話し相手をして下さったり好みの同じ人たちが趣味を共有したりして支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケアを希望されサービス利用が終了しても音楽療法に毎月参加していただき以前と同じ関係を続け支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と面談し日常生活の中から要望等を把握するようにしています。また、スタッフから状況等を聞き取ります。	職員が利用者一人ひとりと一対一になる機会を作り、じっくり話しを聴き思いを受け留めるよう努めている。言葉で表せない利用者については、表情や態度から意向を把握するよう関心を寄せている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の入居にいたるまでの生活歴から好み等を把握できる限りホームの中で近づける用努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のその日の思い、身体状況に合わせて一日のサービス内容を決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日比の申し送り、家族との連絡、毎月のミーティング等を通じ現状に添った介護計画を作成しています。	アセスメントを詳細にとり、本人や家族の思いを反映し初回の計画を作成している。その後は毎月のミーティングでの職員の意見及び主治医の意見を基に評価を行い、3ヶ月ごとの見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日比の申し送り、気づきの申し送りを活用して職員間の共通意識を確保します。変化に対応した計画を見直します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の個性や家族の事情に配慮してその状況を職員間で共有。臨機応変は対応を取れる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては文化商業医療自然とすべてそろっている事を活用し本人の力を発揮して楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人家族の希望するかかりつけ医を指定することができ事業所もこれを支援する。	利用者・家族の意向を尊重した支援とし、専門診療の通院も職員が同行支援し安心した体制がとられている。事業所の協力医からは居宅療養管理指導が発行され、ケアプランに活かせる体制作りとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診の他に訪問看護を月に2回受けられるようになっており介護職にアドバイスをもらっている。必要に応じて適切な受診をすすめられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際はこちらの情報をすべて病院関係者に伝え治療に役立てていただく。定期的に面会に行きその時の病状を家族に連絡する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者について、御家族・主治医・管理者・ケアマネージャーと話し合いを持ち、終末期に向けた治療方針等の支援方法を検討している。御家族の要望に合わせ看取りを行うことができた。	事業所指針も整備されており、段階をふまえ本人・家族との話し合いもなされている。職員は看取りの経験を通し介護に対する自信を深め、より良い支援につなげている。また看取りの後、利用者家族との絆がより深い物となり、現在も行き来が続いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て毎年すべての職員が救命訓練を行っており利用者の急変に対応する事ができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を毎年実施。今年は特に地震と火災の両方を想定した訓練を行った。地域住民にも参加を呼びかけている。	備蓄品も整備され、消防署の協力の元、夜間を想定した訓練も行なわれている。訓練中の声かけや、連絡方法には携帯電話が良いのではないかと等振り返りを行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の個性に合わせた声かけをして身体状況に合わせたトイレ介助入浴介助をしてプライバシーを保っている。	利用者の尊厳ある姿や誇りを傷つけない様、言葉かけや対応に配慮している。	居間脇にあるトイレの間仕切りがアコーデオンカーテンとなっている。ハード面の改善は難しいと思われるが、利用者の誇りやプライバシーに立ち返り職員間での検討を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望をかなえ喫茶店に出掛ける。洋品店で自分の服を選ぶ。花屋で花の購入など自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩などの活動も利用者のその日の心身の状況に合わせ希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋品店で好みの服を選んでもらったり希望があれば理美容院で散髪に出掛けてもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在の状況では一緒に準備、片付けはむずかしくなっているが好みのメニューをお出しするよう心がけている。月に1度の外食は利用者にとっても喜ばれている。	食事が採り易い様テーブル下に足置き台を工夫する等、個々に配慮している。ホーム近郊に外食に出かけ楽しみ事の一つにつながっている。	職員の支援があれば力を発揮できる場面を個々に見つけ、張り合いや自信に繋がる作業を職員で検討されたい。また職員が利用者と一緒に同じ食事を楽しめる環境作りを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に朝昼夕の主食副食水分量を記録している。メニュー表には毎日肉魚野菜がバランスよくとれる調理品目をのせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、夕食後口腔ケアを支援している。一人一人の口腔状態に合わせ歯磨き、液体歯磨き、インジン清爽と分かれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツの利用者には朝昼夕おやつの時間に声掛けトイレでの排泄を促している。オムツの人にも同様の時間に声掛けパットのみにしている。	利用者の様子から敏感に察知し、個々の状態に応じ手を差し伸べ介助している。尿意や便意のない方には時間を見計らってトイレ誘導し、排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の偏食や運動不足が原因となりやすいので苦手な食材は調理に工夫をこらしたり体操の声掛けをして補助をする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日であっても利用者が体調が良くないといわれたり気分がのらなければ無理強いはせず別の日に入浴していただいている。	午前中の入浴体制をとっているが、利用者の体調や本人の意思を尊重した入浴支援をしている。また入浴用チェアーの使用や夏場は回数を増やす等、気分よく入浴ができ、くつろげるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は一人一人の心身状況に合わせて自由に休息してもらい夜は消灯時間までホールでくつろぐ。居室でテレビを見るなどしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が薬の内容を把握しており利用者に手渡ししている。飲み込み困難な人には粉状にしてもらい介助している。身体状況によりかかりつけ医に変更をお願いする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの利用者が得意とすること掃除、編み物、園芸、スポーツ番組鑑賞など毎日の活動に活かしている。外出も希望があれば援助する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望により喫茶店、買い物、床屋など外出支援する。自宅を見に行きたい利用者には遠方であっても付き添い御近所の方とのふれあいもあり喜ばれた。	お墓参りや自宅への帰宅訪問など、利用者の希望に寄り添った支援をしている。理美容院、喫茶店、映画鑑賞、買い物をはじめ近隣の祭りや行事等、常日頃から積極的に外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者には家族からおこずかいが渡されている。そのお金で接骨院のシップを買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に家族や友人に電話を掛けてもらっている。手紙も便箋、切手の用意、投函を支援している。家族からも電話や手紙を頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には利用者の植えた花を置きホールには家族から届けられた花を飾り楽しんでもらっている。廊下には全員で出掛けた写真を貼ってなつかしく思い出してもらっている。	キッチン、居間が一体となり、団欒の場所になっている。ソファやダイニングテーブルの位置に配慮し、居場所となるスペース作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも時代劇を見ている人、編み物に熱中している人、気の合った人どうしおしゃべりしている人と自由に過ごして貰っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれ個性的で家族の写真を飾る人好きな薔薇を飾る人御先祖様の入った仏壇を拝む人と家族にいるような工夫をしています。	居室の入り口には個々に職員手製ののれんが掛けられ、利用者の見当識に配慮している。仏壇が持ち込まれ、法事もご家族が集まり利用者の居室内で行われる等、安心して過ごせる環境作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にはすべて手すりが安全に歩行できるようにになっている。居室にはベッド上で体操できるように手順が貼ってあったり食事の時間が大きく書かれていたりする。		